

**シリーズ豊前市 SDGs とは？** “誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

**2 ZERO HUNGER**

今月は目標 2



## 目標2「飢餓をゼロに」

世界の人口は増加しています。世界中の人々が食べ続けられる食料を確保しなければなりません。

今、世界では約 6.9 億人、世界人口の 11 人に 1 人が十分な食べ物を食べられずに栄養不足になり、健康を保つことが出来なくなった状態である、飢餓に苦しんでいます。

飢餓の原因は、自然災害、地震や津波、洪水や干ばつ、気候変動による台風や集中豪雨、森林火災などがあり、途上国の農業技術が低いという問題もあります。そして紛争も深刻な問題です。世界はこのように大変な状況ですが、2050 年には人口も増えて今と比べて食料が 1.7 倍も必要になるという予測があります。それだけの食料をどのように生産していけばいいのでしょうか？

一方、日本の食料自給率は約 38% で食べ物の半分以上を海外からの輸入に頼っています。にもかかわらず、日本は本来食べられる食べ物を年間 612 万トン(毎日国民全員の茶わん 1 杯のごはん相当)も廃棄し、世界中の農家や農園でつくってくれた食べ物を無駄にしています。




















## 豊前市の取組 | 食育の充実と推進

日本は、赤ちゃんの死亡率が低く、栄養状態が良い国のひとつです。しかしながら近年主食・主菜・副菜を組み合わせた食事に関する状況は悪化しており、特に 20~30 歳代ではこれらを組み合わせた食事を食べている割合が低くなっています。また、令和元年度「国民健康・栄養調査」によると、65 歳以上の高齢者では、低栄養傾向の者の割合が、男性で 12.4%、女性で 20.7% です。特に、80 歳以上の高齢者では、男女とも約 2 割が低栄養傾向となっています。



豊前市では、豊前市食育推進計画に基づき、好ましい食習慣を身につけるための食育の充実に努めています。毎月市報の裏表紙に「食育」コーナーを設け、旬の食材を紹介しており、今後も様々な情報発信をしていきます。世界的な飢餓問題に一人一人が意識し取り組んでいくためにも、まずは「食」に関する正しい知識を身につけ、心豊かに生きる力を育むことによって、健康で文化的で活力ある持続可能な地域社会づくりを一緒にしていきましょう。

## SDGs の主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs 一人一人ができる取組事例

目標 2「飢餓をゼロに」は、世界中から飢餓に苦しむ人々をなくそうとする目標です。今回ご紹介する取組以外にも、**個人でできる取組はたくさんあります。まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組が紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。**



### <わたしたちにもできること>

- ① **食べ残しをしない！食品ロスをなくす** (本当に必要な量だけ買って食べ残しをしない。日本の食品ロスが減りその分飢餓で苦しむ国へ配分されるようになると、それが世界の飢餓を減らすことに繋がります)
- ② **寄付や募金活動に参加してみる** (現在差し迫った飢餓に苦しむ人々に対して寄付や募金活動に参加してみましょう)
- ③ **口にする食べ物がどのように作られているかを調べてみましょう** (口にする食べ物がどのように作られているのか、本や動画、インターネットで調べてみましょう)
- ④ **当事者意識を持つ** (世界の穀物が行き届いていない原因の 1 つに食品ロス問題があり、日本は食品ロスが世界トップクラスです。実は、世界の飢餓問題の原因の 1 つを日本は作ってしまっています。現状を知り意識しましょう)

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)